

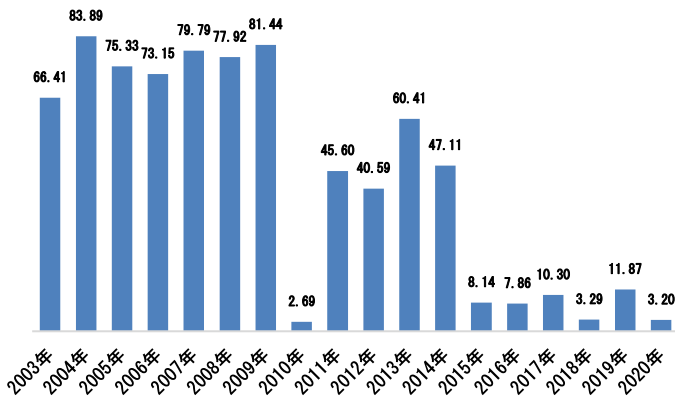
営農ウィークリーNEWS

2021年産米 検査結果

検査数量 (袋/30kg) 11/5 現在

1等	1,758袋	15.84%
2等	8,010袋	72.18%
3等	1,330袋	11.98%
合計	11,098袋	

◆2003年産米 (平成15年) ~ 1等比率 (全銘柄計%)



洛南支店地域の検査の様子 (11/5)



検査開始前に洛南支店平井支店長より挨拶

11月5日、向日・洛南地域の産米検査をもって本年度予定していた日程を終了しました。

検査結果については、左記の通りです。

早生品種は、8月中旬からの降雨と低温により登熟が昨年と比較し緩やかに進みました。高温の影響による白未熟粒(背・腹白粒)の発生は少なかったものの、青未熟粒の発生が品質を下げる要因となりました。

晩生品種で出荷契約米の8割を占める「ヒノヒカリ」は、8月中旬以降の降雨と低温により高温による障害は、ほぼ回避することができ、昨年と比較し、品質は良好でした。

9月以降の低温が影響と思われる、未熟粒の発生による粒揃いが悪いこと、カメムシ類による着色粒(斑点米)の混入が多いことが、晩生品種の品質を下げる大きな要因となりました。

カメムシ類の被害は、昨年より増加傾向でした。近年は暖冬傾向で越冬成虫が多かったことと、9月下旬以降の好天により収穫期まで活動が活発化したことで被害を拡大させたと思われます。

-TAC information-

高品質米づくりに向けて



■土壌改良資材 他

10~12月: 石灰窒素 施用 20kg/10a (収穫後)

1~2月: JA活緑 施用 1200kg/10a

: アヅミン 施用 40kg/10a

: とれ太郎 施用 100kg/10a

4~5月: けい酸加里 施用 40kg/10a (基肥施用時)

■水稻殺菌・植物成長調整剤 他

高温登熟下における白未熟粒の発生軽減・登熟歩合向上

8月上旬: フジワンパック 小包装 (パック) 15個 (1125g/10a)

※農薬の使用前には、ラベル等で登録内容の確認を必ず行ってください。

※高品質米を目指した栽培の事例紹介となりますが、水稻栽培における収益に見合う必要経費となっていないことや、事例をもとに栽培されても、その年の気象状況などにより必ずしも高品質を保証するものではありませんのでご了承ください。

近年、温暖化や異常気象が頻発する時代となりました。水稻を含む農作物の栽培において、例年どおりの栽培技術では、対応できない状況となってきております。水稻栽培では、目まぐるしく変わる気象変化に対応するため、まずは備える技術として、土壌改良資材等をご紹介させていただきます。

※2021年肥料・農薬予約申込書より一部抜粋

JA京都中央管内の
新鮮な農産物を
販売します



みのい姫の ふれあい マルシェ

日時

11月18日(木)

10時30分～14時00分

※ 小雨決行 売切れ次第終了となります ※

次回予定:12月16日(木)

会場

JA京都中央 神足支店
東側駐車場(ATM横)



長岡京市開田4-14-8

前回開催の様子

(2021.7.15)



長岡京市の発行する
「ながすく応援券」
ご利用いただけます☆



↓公式HP↓ ↓公式LINE↓

 **JA京都中央**

☎ 075-955-8575

✉ keizai@kyo-ja.com

主催:JA京都中央 共催:JA京都中央 営農者会

